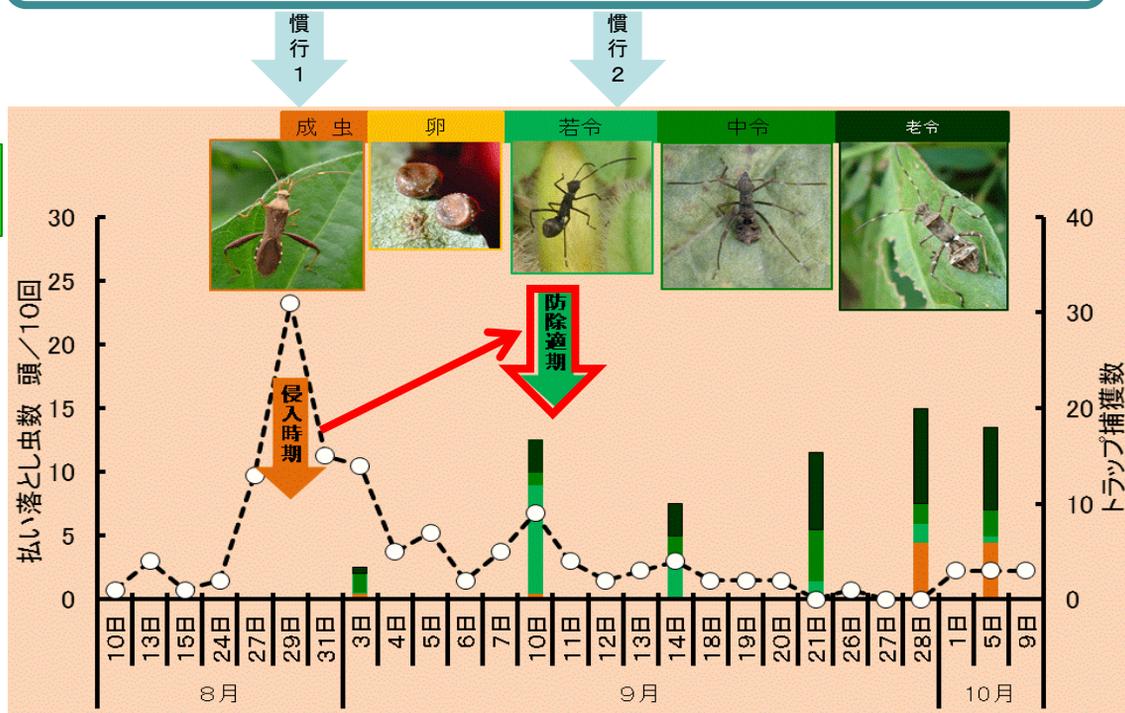


スリットトラップを活用した ホソヘリカメムシの効率的防除

目的と特徴

- ・ダイズの低収量の大きな要因としてカメムシ対策が効率的でない事例があげられます。
- ・吸実性カメムシ類防除は幼虫が確認しにくいいため暦防除が主体です。また、発生状況が考慮されていないため、簡易な発生予測法を開発し、効率的な防除を図りました。
- ・開花期を目安にした防除体系（慣行防除2回以上）を改善し、トラップにより侵入時期を把握した防除（適期防除1回）が可能になりました。
- ・本防除法は、慣行防除（2回）とほぼ同等の防除効果を示し、経済効果も高いです。

幼虫が確認しにくく、慣行防除は暦防除が主体



スリットトラップに よる防除判断

**ホソヘリカメムシの侵入を確認し、適期1回防除
（慣行2回防除と効果は同等）
トラップは1集落に1個（設置経費3,366円/ha）
（無人ヘリ経費35,203円/ha）**

成果

- ・子実肥大初中期のスリットトラップによる捕獲数は幼虫発生量や被害粒率との相関が高い。
- ・子実肥大初中期にトラップ捕獲数が10頭を越えると被害粒率15%を越えるリスクが高い。
- ・トラップによる適期防除（1回）は慣行防除（2回）と防除効果は同等です。

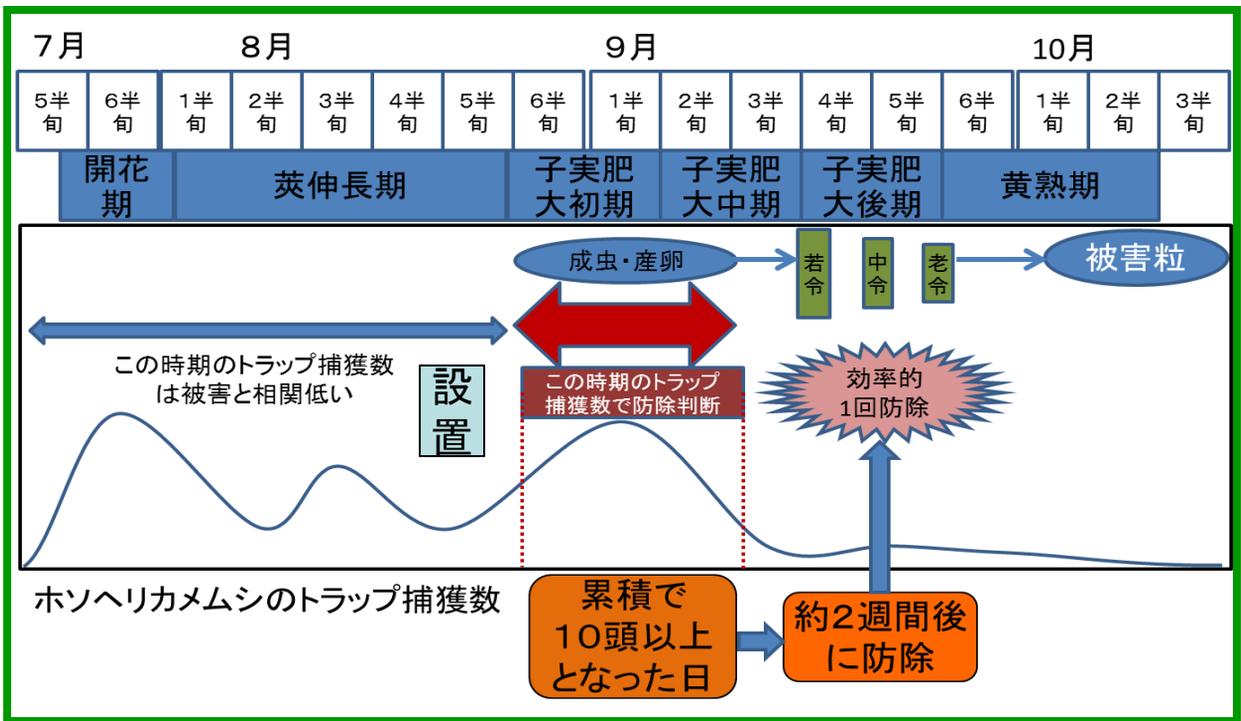


図1 スリットラップによる防除判断技術

表 スリットラップ設置の経費と防除経費の比較

方法	1ha当たり 経費(円)
フィールドキャッチ(ボックス型トラップ) + ホソヘリカメムシフェロモンのトラップ設置	3,366
ブームスプレーヤー(委託)による薬剤防除1回分	25,203
無人ヘリ(委託)による薬剤防除1回分	35,203

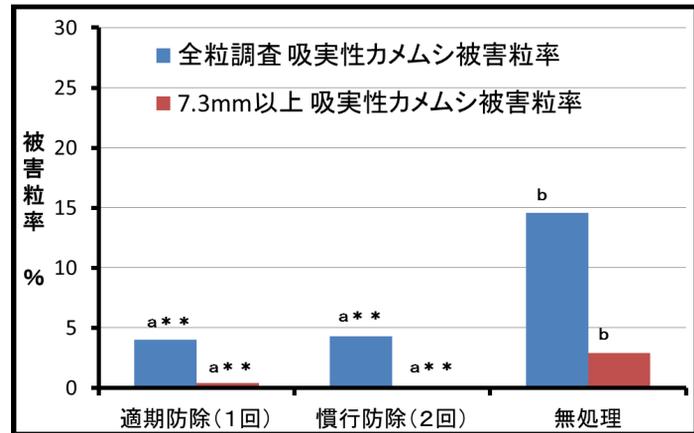


図2 トラップによる適期防除(1回)の防除効果



スリットラップは、山口県農林総合技術センターと富士フレイバー(株)の共同開発です。お問い合わせ先は、下記のHPをご覧ください。

対象作物、普及対象

- ・大豆、西日本(子実肥大期が8月下旬以降の作型)

対象農家

- ・大豆を大規模に栽培している農家、集落営農組織、法人経営

必要な道具

- ・スリットラップ、フェロモン

関連HP(スリットラップ関係)

<http://www.fjf.co.jp/jp/ecomon/product/index.html>

その他

- ・トラップは、集落でカメムシ類の被害の多い山間地に近い大豆圃場の端に、高さ1mのいぼ竹を立て設置します。ミナミアオカメムシ・アオクサカメムシなどが多い場合は、追加防除が必要となります。